

教員研修

現職教育(同和・人権)

研究主題

あすを切りひらき、あすに伸びる力と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成。

1. 主題について

- (1) 国際化、情報化、少子高齢化、価値の多様化、生涯学習社会化等、社会の変化が大きい時代になった。そのため、これからの社会に対応して生きていく能力を伸ばし、創造性を高め、個性を大切にし、思考力・判断力・表現力等を育成する必要がある。
- (2) 校区の歴史的背景を考慮すると、同和・人権教育の充実が大切である。そのことを、学校教育全般の中で取り上げていかなければならない。
- (3) めざす子ども像
 - 差別に対する正しい認識が身についている。
 - 基本的な生活習慣が身についている。
 - 学ぶ意欲があり、基礎学力が定着している。
 - 感受性が豊かである。
 - その場に合った正しい判断ができる。

上記のような子どもの姿をめざし、そのための課題を明らかにし具体的に研究を進める。

(4) 4部会の設置(4部会のテーマ)

社会	基本的人権を尊重し、事実に基づく正しい社会認識を身につける。
生活指導	基本的な生活習慣を身につける。仲間づくりを進める。
基礎学力(算数)	学年に応じた確かな計算力をつけ、論理的な問題解決能力を身につける。
国語	言葉を大切に、豊かな感受性と表現力、考える力を身につける。

望ましい児童の実態に迫るため、4部会を設置し、より具体的に児童の育成に取り組む。さらに、教員の指導力の向上を目指し日々実践を積み上げ、児童の育成に生かしていきたい。

また、各教科・4部会の研究内容を検討し、基礎学力の充実と定着を目指すために、学年に応じた評価目標を定める。これを各題材に関連づけ、基礎・基本を大切にされた指導に取り組む。

2. 主題達成への具体的努力点

- ① 差別を見抜き、差別に立ち向かっていこうとする態度を育てる。
- ② 相手の立場を理解し助け合い、いじめや疎外状況を見逃すことなく、誰とでも仲良くする心を育てる。
- ③ 仲間づくりを通して、身のまわりにある不合理や差別を、力を合わせてなくしていく実践力を育てる。
- ④ 恵まれない環境にある児童の生きる意欲と力をつけるための学力・体力を養う。
- ⑤ 基本的人権を尊重する精神を養い、実践的な態度を育てる。
- ⑥ 物事を論理的・科学的に考え、認識する態度を育てる。
- ⑦ 基本的な生活習慣を身につけ“自立する”子どもを育てる。
- ⑧ 教師の“授業力”を高め、授業で子どもを鍛える。そこから、基礎学力の充実を図り、学習意欲を育てる。
- ⑨ 豊かな心情を育てる中で、人間らしい見方やより価値の高い生き方について考えを深める。

4. 取り組み

各学年と4部会を中心とした取り組みを進める。

(1) 4部会の実践を通して

①生活

◎具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う。

- ・見たり、触ったり、聞いたり、味わったり、においをかいだりする五感を刺激する体験活動を大切に、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持たせる。
- ・自分自身の生活について考えさせる。

②社会

◎地域関連学習の発掘と研究を進める。

- ・地域にある素材を教材化する。
- ・地域に活動の場所を設ける。
- ・地域の人材を活用する。

◎学習活動を工夫し、子どもが「人」「もの」「社会事象」に主体的に関わることができるようにする。

- ・見学、調査活動等の体験学習を重視し、それにもとづく気づきや気持ちの変化、発見、疑問、を表現活動につなげていく。
- ・調べたことを絵や文にまとめる、発表形式で伝える、討論会形式で話し合う等、自らの考えを具体的・論理的に表現できるような活動を取り入れる。
- ・個々の活動の共有化、根拠を持った自分の考えをつくる活動を大切にする。

③生活指導

◎子どもの姿を具体的につかみ、指導に生かす。(生活習慣・生活意識の把握)

◎学校、学年の目標を設定するとともに、子ども一人一人にも目標を持たせ、目標達成に向けて支援する。
(基本的な生活習慣の充実・仲間づくりの促進)

◎基本的な生活習慣の学年ごとの実践を具体化する。

◎家庭、地域の人々と共に考える場を生かす。(家庭訪問・学級懇談会・地区懇談会)

④基礎学力(算数)

◎各学年の実態を把握するため、基礎学力テストを年度当初に実施する。

- ・テスト結果を踏まえ、1～6年までの系統だった課題点を分析する。
- ・課題点を克服するため、具体的な実践に計画的に取り組む。

◎子どもの思考を助ける教具の工夫・開発に取り組む。

◎各学年において、年間の単元内容を見通し、計画的に実践できるよう教材研究に取り組む。

◎算数科の学習では、児童が問題解決をする際、「数学的な考え方」の育成を目指しながらも、計算力が基礎となることが多い。したがって、主に計算力をつける研究を進める。

算数科の学習で身につけた論理的な考え方が、生活上生きて働くようにならねばならない。そのために、計算力の定着に加え、数を关系的・発展的に捉えて問題解決する力や、豊かな数量感覚を身につけることが必要である。

指導計画の立案にあたっては、配慮すべき事項の具体化を図ると共に、算数科の各単元のねらいが有機的に達成されるような指導についても研究を深める。

⑤国語

- ◎言葉を大切にしたい学習活動を通して、言語感覚を養う取り組みを進める。
- ◎一人一人の感じ方や考え方の共通点と違いに気付かせ、認め合うことを大切にする。
- ◎「聞く・話す・読む・書く」ことのバランスを大切にして研究を進める。
- ◎授業研究を通して、研究を深める。

(2) 授業研究を通して

① 教師の“授業力”を高め、子どもに確かな学力をつける

◎お互いにみがき合い、高め合う学級集団をつくる。

- ・落ち着いた雰囲気での学習する集団
- ・まじめさと正義感が正しく評価される集団
- ・教師や友達の「ことば」をしっかり聞ける集団
- ・わかる喜びを分かち合う集団

◎「楽しく、わかる授業」を工夫する。

- ・深い教材研究とねらいのはっきりした授業
- ・学ぶ意欲を育てる授業
- ・一人一人の発言を大切にしたい授業
- ・子どもが自主的・自発的に取り組む授業

◎学習の遅れやつまずきの内容を具体的にし、それを取り除く手立てをする。

以上のことに留意しながら、各学年より授業を提案する。

子どもたちの学習実態を振り返って、以下のことを改善していきたい。

- ・友達の考え、指導者の指導言等を集中して聞けない場合がある。
- ・友達の意見を聞き、それを土台としてその意見に対して自分の意見を述べるというコミュニケーションができない子が多い。
- ・発言意欲に欠ける子どもが多い。
- ・発言は出来ても、その根拠を明確にすることが苦手である。したがって、発言内容が少なくなる。
- ・“言葉”以外のもの、つまり資料やデータなどを根拠とした考えの表現の訓練が不足している。
- ・“事実”と“思い”を区別した話し方がうまく出来ない。

以上の点に鑑み、本年度の授業研究テーマは「筋道を立てて考え、論理的に表現する力の育成」とする。教科等は固定しない。教材観、教具、教師の指導言、授業目標等、児童の実態と照らしながら協議を行う。